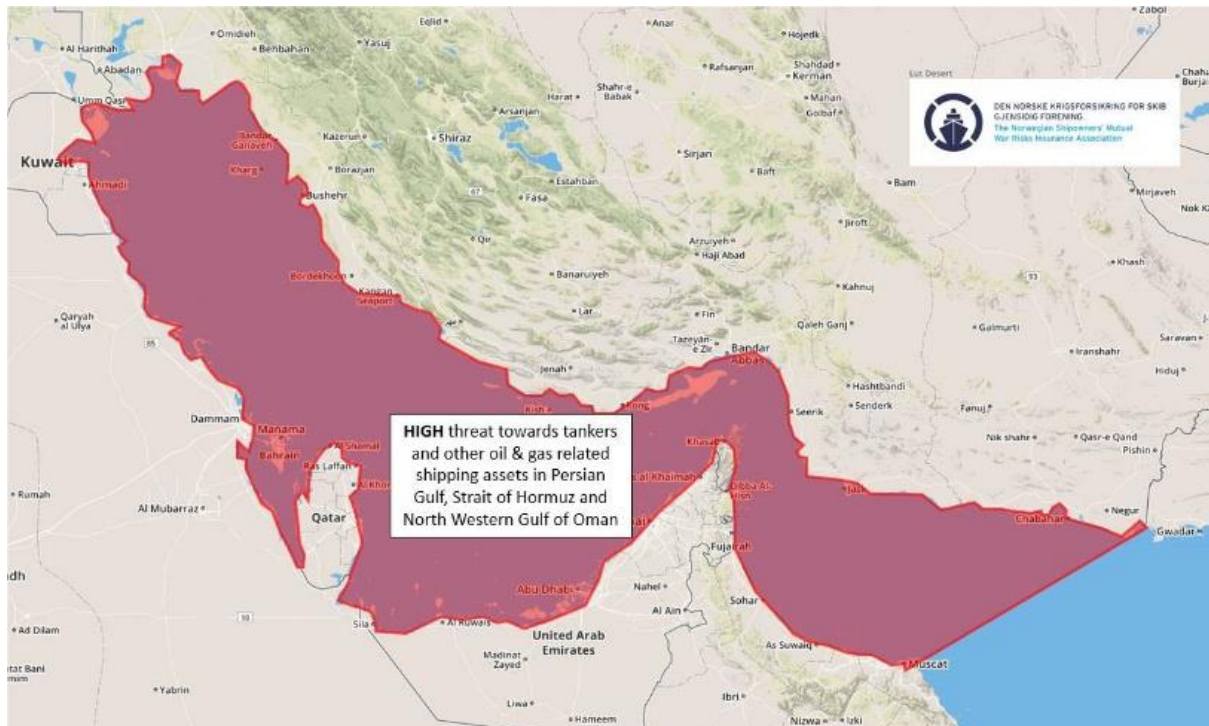


## オマーン湾での事件（2019年6月14日更新）

こちらは、英文記事「[Incident in the Gulf of Oman](#)」（2019年6月14日更新版）の和訳です。



2019年6月13日にオマーン湾で発生した事件の動機は現時点では明らかになっていませんが、すべての船舶、特にタンカーは、保安レベルを引き上げてオマーン湾/ホルムズ海峡/ペルシャ湾地域内を航行するようにしてください。

2019年6月13日、オマーン湾でタンカー2隻の爆発事件が発生し、2隻は大きな損傷を受けました。2隻とも乗組員は避難しています。

タンカー2隻が受けた損傷の種類と度合いから、一部報道では対艦ミサイルによる攻撃の可能性が示唆されています。2019年5月12日午前中にフジャイラ港沖で発生した石油タンカー4隻に対する攻撃について調査が行われていますが、その調査結果により前記仮説の可能性が裏付けられる可能性があります。2019年6月6日の[プレスリリース](#)によると、5月12日の攻撃に関する暫定的な調査結果が出ており、フジャイラ沖の攻撃は「かなりの作戦能力を持つ、おそらく国家による洗練された連携作戦の一環」としてダイバーがタンカーに取り付けた吸着型機雷により引き起こされたことが示唆されているとのことです。

### 脅威の評価

ノルウェーの保険組合 [DNK](#)（ノルウェー船主戦争保険組合）が最近まとめた報告書では以下のとおりとなっています。

- ペルシャ湾、ホルムズ海峡、オマーン湾北西部で運航するタンカー及びその他の石油・ガス関連の海運資産に対する脅威は、現在「高」と評価されています。
- ペルシャ湾、ホルムズ海峡、オマーン湾北西部で運航する上記以外の商業船舶に対する脅威は、現在「中」程度と評価されています。

## 推奨事項

オマーン湾/ホルムズ海峡/ペルシャ湾地域で運航を行う運航者と船長は、細心の注意を払うようにしてください。また、以下の点に努めてください。

- [BMP5](#) や [Global Counter Piracy Guidance](#) に記載されている関連するガイダンスに従う。
- 事件が以前発生した場所または脅威レベルが変更されている地域に入る前に、船舶・航海用の脅威リスク評価を実施し、[Ship's Security Plan](#) を見直す。
- 船舶代理店やその他の地元の情報筋と密に連絡を取り、常に最新の信頼できる情報を入手する。

旗国によってはオマーン湾/ホルムズ海峡/ペルシャ湾地域における保安レベルの引き上げを求める場合があります。これは船舶が、公的な船舶保安計画（SSP）に従い、追加の保安措置を行う必要があることを意味しています。例えば、ノルウェー海事局は、2019年6月13日、北緯25～28度、東経54～58度のホルムズ海峡に到着しようとしていた[ノルウェー船舶](#)に対し、船舶及び港湾施設の保安に関する国際規則（ISPSコード）の保安レベル2に基づき、同船舶のSSPに記載されているとおり保安措置を行うよう指示しています。

組合員の皆さまにおかれましては、2019年5月23日の弊アラート「[Maritime security update on Fujairah incident（フジャイラ事件に関する最新の保安情報）](#)」に記載されているOCIMFやINTERTANKOからの追加アドバイスにもご留意ください。それには、船舶運航者は次のガイダンスを本船に送るよう推奨されています。

- 船橋からの監視においては最大限の注意を払うこと。
- 通信を厳しく監視し、接近してくる全ての船舶との通信を確立すること。
- 乗船管理を徹底すること。
- ギャングウェイやラダーは必要な場合にだけ下すこと。
- 可能であれば船外照明を（特に船尾部分に）設置し、できればサーチライトを設置・利用すること。
- 外板の状態を目視確認すること。

- 疑わしい行為を発見したら直ちに港湾と UKMTO（英国海軍商船隊司令部：+442392222060）の両方に電話で報告すること。
- VHF 及びその他の通信チャンネルを監視すること。
- 消火装置がすべてすぐに使用できる状態であるかチェックすること。メンテナンス中の場合は、緊急用の消火ポンプが使用できる状態かどうかをチェックすること。
- 船舶自動識別装置（AIS）を常に作動させること。直近の寄港地や次の寄港地を示すフィールドは入力不要。

DNK より最新の報告書をご提供いただき、脅威評価の一部と上記地図の転載を許可いただきました。

本情報は一般的な情報提供のみを目的としています。発行時において提供する情報の正確性および品質の保証には細心の注意を払っていますが、Gard は本情報に依拠することによって生じるいかなる種類の損失または損害に対して一切の責任を負いません。

本情報は日本のメンバー、クライアントおよびその他の利害関係者に対するサービスの一環として、ガードジャパン株式会社により英文から和文に翻訳されております。翻訳の正確性については十分な注意をしておりますが、翻訳された和文は参考上のものであり、すべての点において原文である英文の完全な翻訳であることを証するものではありません。したがって、ガードジャパン株式会社は、原文との内容の不一致については、一切責任を負いません。翻訳文についてご不明な点などありましたらガードジャパン株式会社までご連絡ください。